

「令和元年度第3回 阿見町人と自然が織りなす、輝くまち創生有識者会議」議事概要

審議会等の名称	令和元年度第3回 阿見町人と自然が織りなす、輝くまち創生有識者会議
開催日時	令和元年11月27日(水) 午後2時00分から午後4時00分
開催場所	阿見町役場 4階 全員協議会室
議 題	<p>(1) 第2期総合戦略策定の進捗状況について</p> <p>(2) 収集意見等の戦略への反映について</p> <p>(3) 将来人口展望の目標値の設定について</p> <p>(4) 第2期阿見町人と自然が織りなす、輝くまち創生総合戦略素案について</p>
議事結果	<p>【出席者】 (委員) 牧山委員長, 野口副委員長, 石引委員, 海山委員, 国井委員, 蓮田委員, 成島委員, 江田委員, 山口委員, 木村委員</p> <p>(町) 湯原町長公室長 政策秘書課: 佐藤課長, 糸賀補佐, 高村主任, 宮本主任</p> <p>【主な意見】</p> <p><収集意見等の戦略への反映について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民と行政, 住民同士の協働関係が大切ではないか。共助についてはもっと謳い込んでもいいのではないかと。共助に災害の部分をもう少しからめて書いてはどうだろうか。 ・防犯については, 町内に監視カメラが少ないと思う。そういった安全, 安心に関わる部分を充実させて, PRしていくのはどうか。 ・防犯カメラは良い案だが, カメラの管理をどうするかを考えなければならない。また, 画像の提供については, 判断が難しいと思う。 ・都市と自然の調和のとれたまちづくりが大切だと思う。将来の人口構成を考えると高齢化は目に見えている。その時に交通アクセスをどう整えるかが課題だ。土浦市は巡回バスがこまめに回っているので, 利便性が高いと聞く。高齢になると自然環境の良いところに住みたい人も増えるという。農村部には空き家が多く, 希望者にはそこに住んでもらう, そして交通手段を整えて提供するのはどうだろうか。 ・将来の阿見町の人口を増やしていくには, 若い人も大切だが, 高齢化のなかで, 終の住まいづくりといった街づくりも必要なのではないかと。そこに都市と農村交流があってもいいと思う。 ・農村部にシェアハウスを作って, 行政の援助をもらいながら, 地域の人を支えていくというのはいかがでしょうか。

<将来人口展望の目標値の設定について>

- ・近隣市町村で人口を取り合っている状況なので、より魅力のあるまちづくりを進めていかなければならないと思う。
- ・子どもの出生数を高めていくことが大切だと思う。

<第2期阿見町人と自然が織りなす、輝くまち創生総合戦略素案について>

[基本目標1]

- ・SWOT分析について、最終的には強みを生かすか、弱点をつぶすかにしぼっていくと思うが、今の計画はすべてを並列に並べてしまっている。強弱を付けて絞っていかないといけないと思う。
- ・町外との連携なども取り上げてもいいのではないかな。

[基本目標2]

- ・阿見町に対する愛着の醸成の必要性について入れてみてはどうか。
- ・若い人は、ゲーム、歴史に興味がある。鹿嶋市では、アニメーターとのコラボで、カードがもらえるイベントを開催していて、良い宣伝になっているので、同じようなことができないか。
- ・「茨ひより」を活用して県は情報発信している。町も活用してもよいのではないかな。
- ・賑わいのあるまちづくりについて、学生から車がないと何もできない町だという声がある。公共交通が少なく、歩いて移動というわけにもいかない。自転車で移動というのが良いと思うのだが、路上駐車が多かったり、走行面でなかなか難しいところがあると思う。自転車の乗りやすいまちづくりをすすめるというのは考えられないか。
- ・車で行ける距離に便利なショッピングモールがある。こういう所は、車がないと行けないから、やはり若い人に車は必要になるのだと思う。
- ・何かきっかけがあれば、町が大きく変わるということがある。大洗のあんこう祭りはアニメの影響で来場者が3万人から14万人になった。
- ・役場内で自由なアイデアを出せる環境を作ってみてはどうか。
- ・移住定住で検索すると空き家バンクが出てくる。空き家バンクの活用は有効だと思う。
- ・空き家対策と学生を繋ぐなら、空き家をリフォームをして、そこで学生が共同生活をするというのはどうか。
- ・テレビで地域の人たちが自分たちで空き家対策に取り組んでいるのを見た。地域の人々の協力は欠かせないだろう。

[基本目標 3]

- ・結婚していない男性は、40歳代、50歳代で多いと感じる。親としては自分が生きているうちはいいけれど、自分が死んだ後が心配と聞く。そういう人に婚活に声をかけても良い反応はない。今後どうなるのか心配になる。
- ・街コンをするなど、出会いの環境を作らないといけないと思う。
- ・40歳代、50歳代については、結婚に興味がない人が増えている気がする。結婚を考えるのが難しくなっているのもあるではないか。
- ・結婚観の多様性もあると思うが、結婚支援は大きな課題だと思う。
- ・国の調査だと、結婚について回答者の9割近くがいずれ結婚したいと回答しているという。それは80年代から変わっていない。結婚観の多様性はあるが、結婚したいという人が多数だと思う。結婚したい人が結婚できるような社会にしていけることが理想だ。
- ・晩婚化、未婚化には高学歴化が関係しているのではないか。結婚の年齢がどんどん遅くなっている。
- ・結婚を希望している人に対する施策がここでの議論だと思う。結婚を希望する人がきちんと結婚できるような施策を考えなければならない。
- ・マリッジクラブのイベントで、楽しい出会いの場を提供して、結婚したい人が結婚できるように繋げていきたい。イベントに男性は来るのだが、女性が集まらない。今後周知の方法を検討したいと思っている。マリッジクラブでも、自分の死後の子どもが心配等、親から切実な相談が多々ある。

[基本目標 4]

- ・世代間交流について、基本目標4にも盛り込んでいいのではないか。公民館の充実をもっと入れてもいいと思う。引きこもりの人、不登校の子たちが行ける場所、登校扱いになる場所なども作って、そこで高齢者等とふれあい、世代交流を進めていくというのはどうか。
- ・世代間交流について、生涯学習分野でも高齢者と参加者の若者との交流はあるので、生涯学習に高齢者を入れてもいいかと思う。
- ・ふれあいのまちづくりの分野で、スポーツ団体はあるが施設が足りないと聞く。また、関わっている人へのサポートが足りていないし、予算よりも人材がほしいということも聞く。人材や活動場所の確保は団体だけではなかなか難しいところがあるので、行政で支援ができればいい。
- ・人材バンクという制度があって、地域の人が登録しているようだ。スポーツ分野での登録があれば活用したらいいと思う。
- ・今考えているのは第2期に向けてどうするかということであるが、その先の第3期を見越して何ができるかについても、来年度になってしまいかもしれないが、きちんと考えていかなければならないだろう。

午後4時00分終了